

狭山市次世代育成支援計画(骨子)(案)

ともに支えあい、元気で安心して 子育て・子育てができるまち・さやまを目指して



願いは子どもが健やかに伸び伸びと育つこと

市では、狭山市次世代育成支援計画の策定に先立ち、小学生までの子どもを持つ保護者の皆さんへのアンケート調査や子育て関係団体へのヒアリングを行い、さまざまな意見などを伺ってきました。そして、市民も参加する、狭山市次世代育成支援計画策定委員会」を設置して、計画の骨子(案)をまとめました。また、計画の策定に関して、11月17日(水)から市民懇談会を開催し、幅広いご意見を伺い、市民皆さんとともに計画を策定していきます。今月は、その概要をお知らせします。ぜひ皆さんのご意見をお寄せください。

進む少子化と求められる次世代育成支援

平成14年1月に発表された日本の将来推計人口は、

これまで少子化の主な原因となった晩婚化や未婚化に加え、結婚した夫婦から生まれる子どもの数も減少している。夫婦の出生力そのものの低下」が明らかになりました。これらを背景に、このままでは少子化は、今

後一層進行することが懸念されます。

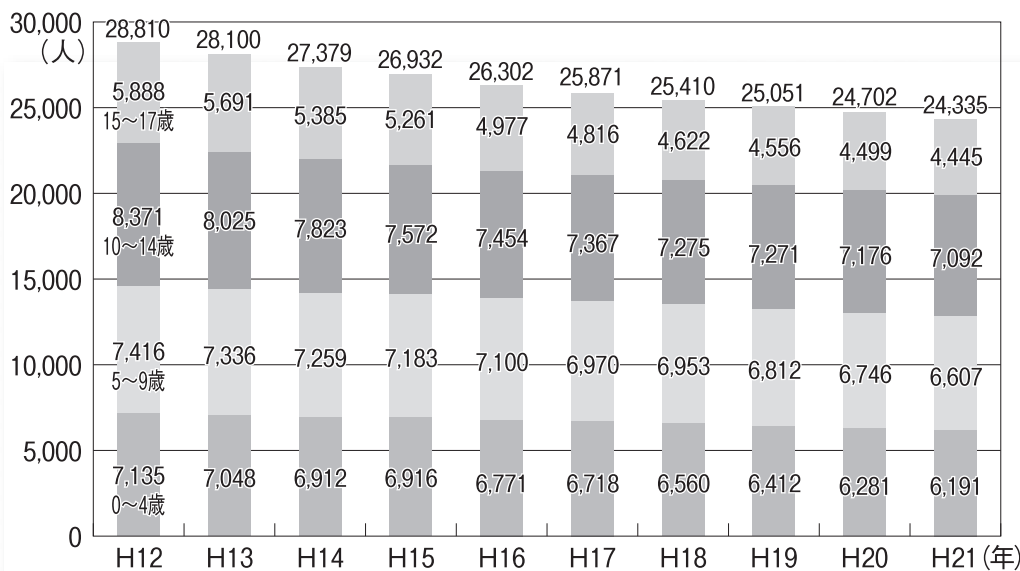
市ではこれまで、狭山市児童育成計画」「狭山市母子保健計画」を策定し、子育て支援施策と母子保健事業に取り組んできました。しかし、少子化の流れを変えるためには、国や県、企業などと連携し、もう一歩踏み込

んだ対策を進める必要があります。

このようなことから、子どもが伸び伸びと健やかに育ち、また、親がゆとりを持って安心して子育てができるよう、さらに、地域で温かく子育て、子育てを支えるために、狭山市次世代育成支援計画を策定していきます。

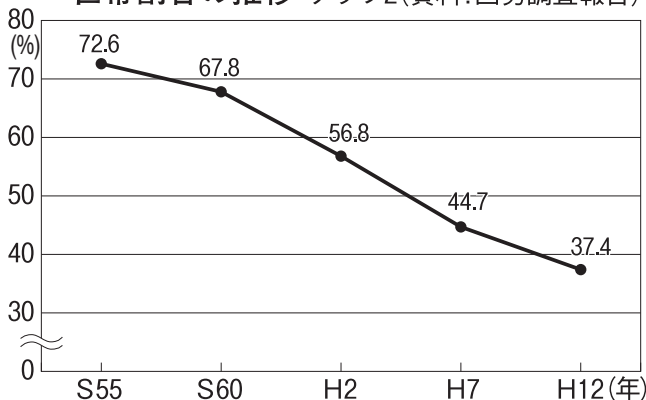
■児童数(0～17歳)の推移と将来推計

グラフ1(各年1月1日現在)



■親族世帯に占める18歳未満児童のいる世帯割合の推移

グラフ2(資料:国勢調査報告)



※親族世帯…2人以上の親族で構成される世帯

狭山市における児童数の推移と家族構成

グラフ1では、児童数の推移と狭山市次世代育成支援計画の期間である平成21年までの推計を表しました。児童数は減少する傾向にあり、平成12年から16年までの5年間で約2千500人、17年から

21年の推計でも、さらに減少が続くと予測されています。また、グラフ2では世帯の家族構成を表しました。児童数は、昭和55年の72.6%から平成12年の37.4%へと20年間で半減していることが分かります。

計画の期間は

平成17年度から21年度まで

この計画は、次世代育成支援対策推進法に定める市町村行動計画に位置付けられるもので、計画の期間は平成17年度から21年度までの5年間です。

これまでの取り組みを踏

まえ、次世代育成支援対策の基本的方向や子育て支援サービスを明確に示します。そして達成しようとする具体的な目標、内容および実施時期などを定め、総合的かつ一体的な推進を図ります。

計画の基本的な視点は

「子ども」「親」「地域」

計画では、大切にすべき3つの方向性を基本的な視点と位置づけています。

①子どもがのびのびと

健やかに育つために

子どもは豊かな個性と限りない可能性を持って生まれ、明日の社会を担っていく、かけがえのない存在です。私たちは、子ども達一人ひとりが、自らの個性や可能性を発揮しながら未来に向かって夢と希望を抱き、生き生きと育っていき姿を「子育て」と表現し、こうした子ども達の主体的な成長を支え、応援していく環境

②親がゆとりをもって安心

して子育てができるために

家庭は、社会としての最小単位であり、また子育ての最も基本的な場でもあります。家庭は親がゆとりを持ち、安心して子育てできる場になることが理想です。そのため、子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育てに関する不安や負担感を軽減すること、子育て家庭そのも